

災害残土を遊休農地再生へ活用



— 昨年の台風19号で甚大な被害を受けた丸森町では各地で災害復旧工事が進んでいる。災害復旧工事にあたって問題となるのが川底に堆積した土砂等の災害残土である。

町内でも多くの河川復旧工事によって災害残土が発生したが、町東部に位置する小斎地区では、面積が小さく農業の担い手もない

遊休農地を、災害残土で土盛りし再生させる取り組みが行われている。

事業を行っているのは小斎地区の中にある清水下地区で、農家の高齢化や担い手不足で近年は耕作されていなかったおよそ6,400㎡の田畑である。

地区で結成された「小斎農援隊」が主体となり、昨年11月より草刈や整備が行われ、今年2月より土砂の受け入れが始まった。3月末に土盛りは終了し、現在は耕起作業が行われている。8月中に景観作物としてソバの植え付けが始まり、10月に収穫予定だ。



小斎地区振興連絡協議会の戸村哲夫事務局長は「ソバの植え付けが始まると9月頃には綺麗なソバの花が見られると思う。ぜひ見に来ていただければ」と話す。

【記事提供：丸森町農業委員会】